

令和元年度 熊野尾鷲産業安全衛生大会 熊野尾鷲優良勤労者表彰式

と き：令和元年11月19日（火）午後1時30分開場

ところ：南牟婁郡紀宝町鶴殿1147-2

紀宝町生涯学習センター「まなびの郷」きらめきホール

主催／熊 野 尾 鷲 労 働 基 準 協 会

共催／建設業労働災害防止協会三重県支部尾鷲分会・熊野分会

林業・木材製造業労働災害防止協会三重県支部尾鷲分会・熊野分会

陸上貨物運送事業労働災害防止協会三重県支部紀北分会・南紀分会

三重県火薬類保安協会尾鷲・熊野支部

三重産業保健総合支援センター・東紀州地域産業保健センター

後援／熊 野 労 働 基 準 監 督 署

来賓（8名）

- ・三重労働局 労働基準部長 柘植 典久（つげ のりひさ）
- ・一般社団法人三重労働基準協会連合会
事務局長 日美 昌平（ひみ しょうへい）
- ・熊野市長（代理） 熊野市総務課長 山本 方秀（やまもと まさひで）
- ・紀宝町長 西田 健（にしだ けん）
- ・御浜町長 大畑 覚（おおはた さめる）
- ・尾鷲公共職業安定所熊野出張所長 高木 俊宏（たかぎ としひろ）
- ・熊野労働基準監督署長 古市 泰久（ふるいち やすひさ）
- ・熊野労働基準監督署 監督・安衛課長 内田 憲（うちだ けん）

講師（1名）

- ・みえ防災・減災センター
企業防災アドバイザー 川合 一明（かわい かずあき）

主催者（9名）

- ・熊野尾鷲労働基準協会会長 石塚 豊（いしづか ゆたか）
- ・建災防尾鷲分会長 平野 金人（ひらの かなと）
- ・建災防熊野分会長 井本 伊織（いもと いおり）
- ・林災防尾鷲分会長 土井 恭平（どい きょうへい）
- ・林災防熊野分会長 荘司 健（しょうじ たけし）
- ・陸災防紀北分会長 山口 公一（やまぐち きみかず）
- ・陸災防南紀分会長 花尻 和典（はなじり かずのり）
- ・三重産業保健総合支援センター 副所長 西村 元（にしむら はじめ）
- ・東紀州地域産業保健センター 庵前 佳生（あんのまえ よしお）

～ 大会次第 ～

1 開会の辞

建設業労働災害防止協会三重県支部熊野分会長 井本 伊織

2 主催者挨拶

熊野尾鷲労働基準協会会長 石塚 豊

3 産業安全衛生優良事業場・優良勤労者表彰

受賞者名簿

4 来賓祝辞

三重労働局 労働基準部長 柘植 典久
紀 宝 町 長 西田 健
(一社) 三重労働基準協会連合会事務局長 日美 昌平

5 ストレッチ体操

北越コーポレーション(株)紀州工場安全環境管理室 上野 和貴

6 記念講演

みえ防災・減災センター 企業防災アドバイザー 川合 一明

7 大会宣言

陸上貨物運送事業労働災害防止協会
三重県支部南紀分会長 花尻 和典

8 閉会の辞

林業・木材製造業労働災害
三重県支部熊野分会長 莊司 健

(敬称省略)

令和元年度受賞者名簿

I 産業安全衛生表彰

1 熊野尾鷲労働基準協会会長表彰

産業安全優良事業場賞

熊野精工 株式会社

社会福祉法人 紀宝町社会福祉協議会

株式会社 アドウェル

大和緑化 株式会社

株式会社 三角田工業

労働衛生優良事業場賞

パナソニックライフソリューションズ 紀南電工 株式会社

イオンリテール株式会社 イオン熊野店

吉野熊野新聞社 有限会社

株式会社 日比野生コン

株式会社 第三銀行御浜支店

2 建設業労働災害防止協会三重県支部尾鷲分会会長表彰

産業安全優良事業場賞

株式会社 幸組

尾鷲電設 株式会社

宮田設備工業 株式会社

3 建設業労働災害防止協会三重県支部熊野分会会長表彰

産業安全優良事業場賞

崎建設 株式会社

有限会社 堀工務店

Ⅱ 優良勤労者表彰

1 熊野尾鷲労働基準協会会長表彰

前田育男	まえだ	いくお	北越コーポレーション株式会社	紀州工場
杉山秀樹	すぎやま	ひでき	北越コーポレーション株式会社	紀州工場
向井弘巳	むかい	ひろみ	北越コーポレーション株式会社	紀州工場
宮本浩文	みやもと	ひろふみ	株式会社	北越ペーパーテック紀州
中本寛人	なかもと	ひろと	株式会社	北越ペーパーテック紀州
山口伸之	やまぐち	のぶゆき	株式会社	北越ペーパーテック紀州
瀧谷雄久土	たきたに	おくと	株式会社	尾崎畜産御浜ファーム
島田隆宏	しまだ	たかひろ	株式会社	尾崎畜産御浜ファーム
松平真和	まつだいら	まさかず	株式会社	尾崎畜産御浜ファーム
東昭宏	ひがし	あきひろ	株式会社	尾崎畜産御浜ファーム
栗栖宏之	くりす	ひろゆき	熊野精工	株式会社
平瀬千佳央	ひらせ	ちかお	熊野精工	株式会社
加田雄一郎	かだ	ゆういちろう	熊野精工	株式会社
赤土崇	せきど	たかし	日本土木工業	株式会社
曾我義英	そが	よしひで	三重交通株式会社	南紀営業所
西久保和彦	にしくぼ	かずひこ	三重交通株式会社	南紀営業所
三谷紘司	みたに	こうじ	牟婁合同運送	有限会社
西村博文	にしむら	ひろふみ	牟婁合同運送	有限会社
下地泰士	しもじ	たいし	株式会社	伊藤工作所
荒川育子	あらかわ	いくこ	株式会社	伊藤工作所
川端まつ江	かわばた	まつえ	尾鷲物産	株式会社
三鬼和子	みき	わこ	尾鷲物産	株式会社
上村豊	うえむら	ゆたか	尾鷲物産	株式会社
小西正記	こにし	まさき	尾鷲物産	株式会社
石倉弘子	いしくら	ひろこ	紀洋精密	株式会社
増井總子	ますい	ふさこ	紀洋精密	株式会社
西村直哉	にしむら	なおや	紀洋精密	株式会社
福山アイリン	ふくやま	あいりん	紀洋精密	株式会社

山田 朋史 やまだ ともふみ 株式会社 塩谷組
西川 浩明 にしかわ ひろあき 株式会社 塩谷組
岡 伸 一 おか のぶかず 有限会社 丸昇石材
石倉 光 いしくら あきら 中部電力 株式会社尾鷲営業所
久保 尚由 くぼ ひさよし 株式会社 中部プラントサービス尾鷲保修所

2 建設業労働災害防止協会三重県支部尾鷲分会長表彰

井谷 春一 いたに しゅんいち 株式会社 平野組
瀬川 桂 せがわ かつら 株式会社 丸昇建設

3 建設業労働災害防止協会三重県支部熊野分会長表彰

中村 晃 なかむら こう 株式会社 川上組

《 記念講演 》 テーマ・講師プロフィール

別紙の通り

令和元年度熊野尾鷲産業安全衛生大会 記念講演

○ テーマ：「巨大地震に備える」

講師 三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

企業防災アドバイザー かわい かずあき
川合 一明

住所：〒512-1211 四日市市桜町 6599-17

電話：080-5104-7346



肩書： 地域地震情報株式会社 代表取締役
みえ企業等防災ネットワーク 運営委員

略歴：1941年 伊勢市 生れ
1960年 日本トランスシティ（株）入社
2001年 同 常務取締役
2003年～2006年 中部コールセンター（株） 代表取締役社長
2006年 地域地震情報株式会社 起業
2014年～ 現職

巨大地震に備える

Midimic 三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
mie disaster mitigation center

企業防災アドバイザー 川合 一明

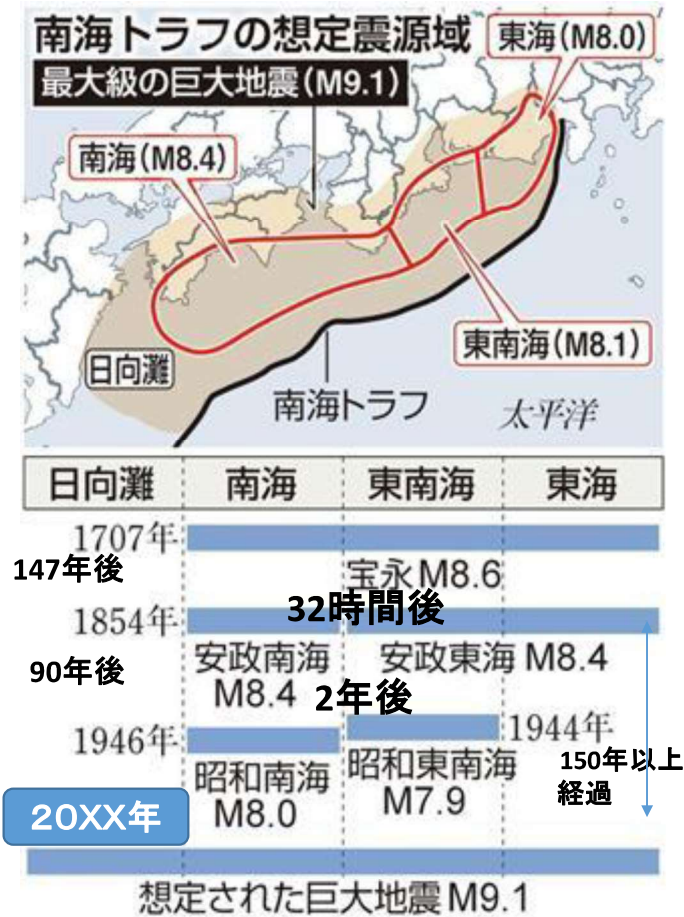
日本は世界に稀なほど、地震や台風、異常気象、火山噴火等の自然災害数多くかつ周期的に発生する国。



- 1年間の地震発生回数(2009年) 震度4以上 40回
- 日本の活断層の数 およそ2,000
- 日本の活火山数 108
- 台風上陸数(2011~2018) 平均3.75個(年間)

地震の歴史から学ぶ

3



最悪シナリオに備える

宝永型：東海地震、南海地震が同時に起きるパターン。
地震規模、被災地の広がり最も大きく、津波災害が甚大になる。

安政型：まず東海地震が起こり、数十時間後に南海地震が起こるパターン。
緊急な災害対応がとられている最中にもう一度地震が起こり、二次災害が拡大する。

昭和型：東海地震と南海地震のあいだが数年あくパターン。
最初の地震の後になされた復興努力が無に帰するおそれがある。

どんな自然災害に襲われても、企業は・・・

- ①社員（家族）の命を守らなくてはならない
- ②建物・設備などの損壊を最小限に止めなくてはならない
- ③企業活動を再起・復興させなくてはならない
- ④社会の構成者としての責任を果たさなくてはならない

4



真剣な備えの基本は…

「我がこと感」を持って

- 「自分自身を」
- 「家族を」
- 「職場を」
- 「地域を」

守ること!!



5

I. 災害の想定 (地震の例)

この地域でどんな規模を想定するのか?

マグニチュード9.0以上

震度7 津波 約15m~20m

阪神淡路大震災の「揺れ」

+

東日本大震災の「津波」

+

「大規模な土砂崩れ」

ハザードマップみてますか?

6

II. 被害リスクの想定

- ・ 万が一の時、どんな目に合うのか？

備えるべき災害対象を明確にし、
事前防災対策・個別防災対策に取り組む。

● 災害リスクが生じた場合の被害想定

どのような影響が出るかについてはある程度想定できる。
被害を想定し、何をすればその影響を受けなくて被害を
生じさせないで済むかという防災対策を検討する。

最終的には「自社」でリスクを決め
その企業の「覚悟」を示す

III. 事前防災・減災対策

- ・ 事前に取り組める対策は何か？

大地震や自然災害により経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）
とりわけ人命が失われる。
事前防・減災対策で、最低限従業員の命を守ることが出来る
可能性が高まる。

● 事前防災・減災対策の進め方

- ①地震対策 強い揺れから命や設備を守る。
- ②二次災害・自然災害対策 避難で命を守る。
- ③防災備蓄・帰宅困難者対策 帰宅抑制
- ④安否確認対策 従業員及び家族の安否確認

①地震対策 強い揺れから命や設備を守る 建物・設備の損壊を最小限に

震度6以上の「揺れ」に耐える

①建物の耐震性の確認

地盤検査、耐震診断、建物の点検をし、安全性を確認。

⇒必要に応じて補強

②職場の安全対策

レイアウトの工夫（動線の確保など）、家具を固定（転倒防止策）、家具の上に物を置かない（落下防止）、ガラスに飛散防止フィルムを貼る（破損、飛散防止）、転倒、落下、破損、移動の観点から職場の危険個所を点検。

⇒整理整頓が行き届くことによる業務の効率化といったメリットもある。

⇒事務所等の一部を人が逃げ込めるシェルター化を図る。

③机の下などを整理し身体を守れるスペース確保。

9

備えの大前提は各自の「自助」 「とっさの時」にどうやって 自分の身をまもる？

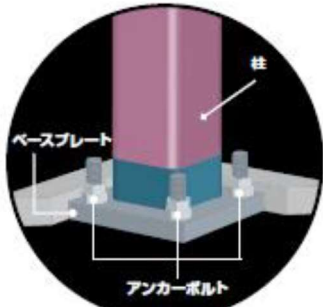
	所属	_____	
その時	私は…	氏名	_____
どこで			<input type="text"/>
何をしているか			<input type="text"/>
避難は			<input type="text"/>
どこへ			<input type="text"/>
どんな方法で			<input type="text"/>
必要時間			<input type="text"/>

10

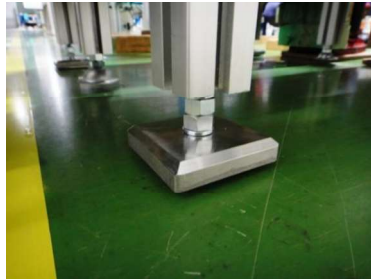
【機械の地震対策】

機械への地震対策は確実に固定し、地震が発生した時に倒壊、損壊、移動が起きないようにします。機械の固定は、地震時の危険性に応じて各機械のランク分けをして行います。

11



アンカーボルト



安震アジャスター



耐震用ジェルで床面固定



アンカーレス耐震固定



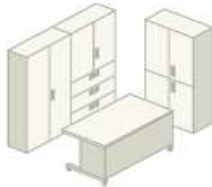
定盤落下防止ブラケット

【事務所内の地震対策 例】

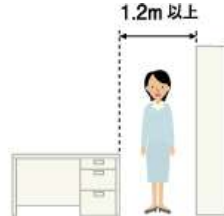
1.フロア

全体を見渡せるか、視界を遮るような大きな家具がフロアの中心に置かれていないかが重要。また、個々のデスクを整理しておくこと、通路に物を置かないことも、避難をスムーズに行う上でのポイント。

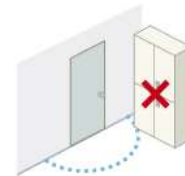
デスクまわりやオフィスの中央に背の高い家具を置かないようにする。



避難経路の幅は1.2m以上確保する。



避難経路に転倒・移動するような家具・什器を置かないようにする。



パソコンなどのOA機器はベルト・ワイヤー・ゲル等の耐震グッズで固定する。



オフィス内は整理整頓し、書庫の上などには物を置かないようにしましょう。



デスクの下は、緊急避難場所。物は置かないようにする。



12

②二次災害・自然災害対策

避難で命を守る

●命に危険を及ぼす地震の二次災害及び自然災害をピックアップし避難基準を策定

- ・職場内にとどまるのが危険と判断される場合
- ・初期消火が間に合わず火災が本格化した場合 等

●避難に必要な情報をまとめる

- ・避難場所を設定しておく。
- ・避難ルートに危険が無いかを確認しておく。 等

●避難時の持ち出し用品を決めておく

- ・重要書類 契約書（賃貸借契約書、売買契約書等）
預貯金関係（預金証書、貯金通帳、印鑑等） 等
- ・電子データ（従業員情報・顧客情報類等）
パソコンやサーバー等のバックアップ対策

13

③防災備蓄・帰宅困難者対策

帰宅抑制

●帰宅困難者の把握

従業員一人一人の職場から自宅までの帰宅マップ、
帰宅ルートや、行程計を作成させる等、事前対策をとる。

●来客者への対応

災害発生時に来客がいる場合は、接客担当者が防災責任者に報告し来客
が、無事避難できるように会社組織として対応する。

必要に応じて来客者に帰宅情報や備蓄品を提供する。

来客者が帰宅困難な場合は、従業員と同様に扱う。

●残留者基準の設定

帰宅困難者以外に、復旧活動や救護活動のために職場に待機するもの
も含まれる。災害時の復旧・作業のためどれだけの従業員を職場に待機
させるかをあらかじめ決めておく。

＜帰宅困難者の把握＞

従業員の住所地、職場から半径10km以上離れている場合に帰宅困難
者とみなす。

14

●残留者の対応

企業は残留者の安全を確保しなければならない。

- 残留者数分の備蓄の確保
備蓄品の量は、**従業員1人当たり7日分**を人数分だけ確保することが理想。 <備蓄品の量（例）>

- 非常用電源、仮設トイレなどの非常用設備を設置
- 寝具等の備蓄品の調達、配給
- 食料、飲料水などの配給
- 災害状況、復旧状況等の情報提供
- 医療・衛生管理（急病人や怪我人の手当て、伝染病等の防止）など

15

●備蓄品の定期的な更新

食料や水は賞味期限がある。懐中電灯等の電池切れもあり、備蓄品は定期的に更新する。防災訓練を実施するときに更新をすることを決めておくなどの工夫をする。

④安否確認対策

従業員及びその家族安否確認

●安否確認の対象範囲の決定

正社員、派遣社員、アルバイト、**従業員の家族**
従業員及びその家族への緊急連絡一覧表
(複数の連絡先が分かるようにする。)

●職場外にいる従業員との連絡

災害時の緊急連絡先を複数決めておく。どのように手段で安否確認を行うかを取り決める。

●複数の連絡手段

一般加入電話以外の比較的繋がりやすいメール等のパケット通信を利用する等、安否確認のための連絡手段を多様化する。

⇒NTTの災害伝言ダイヤルは個人の安否確認のためのシステム。従業員との連絡には使用しない。

16

●安否確認の従業員教育

登録方法や手段は、災害時に従業員が間違いなく活用できるよう周知徹底する。

安否確認は、災害伝言ダイヤルをはじめ、平時から訓練が必要

●個人の利用できる安否確認の手段

- ・NTTの災害用伝言ダイヤル「171番」
- ・携帯電話会社の災害用伝言板サービス
- ・IAAシステム 大規模災害発生時にインターネット上で被災者の安否情報等を登録・蓄積し、検索するシステム。

●街頭公衆電話

公衆電話は、輻輳の影響が少なく災害時にも比較的繋がりやすい通信手段。NTTでは、災害状況に応じて公衆電話の無料化を実施する。10円玉を数枚携帯しておく。

●特設公衆電話

緊急措置としてNTTが被災者の通話を確保するために避難所等に設置する無料の公衆電話。

17

IV. 防災教育・防災訓練

どんな訓練が、何回できるのか？

防災マニュアルや行動基準を、全従業員が迅速かつ的確に必要な対応が出来るように、**各自の役割とその対応内容**を十分理解する必要がある。

【防災教育】理解という点に重点

「知識」として全従業員同一レベルの内容を理解し、行動できる基礎を与える。

【防災訓練】理屈抜きに身体に覚え込ませる事が重点

条件反射的に行動できるよう**何度も何度も繰り返し**身につけさせるもの、すなわち「知恵」を獲得させる。

18

訓練の重要性と効果

- 「訓練」以上のことは、実際でも出来ない
- 繰り返し実施することで、自律的に動けるまで
- 部分的な訓練と、総合演習
- 最小限のコストで、いつでも始められる
- 大きな効果のあることは、「3.11」が立証

**いかに「我がこと感」を持って
真剣にやるか**

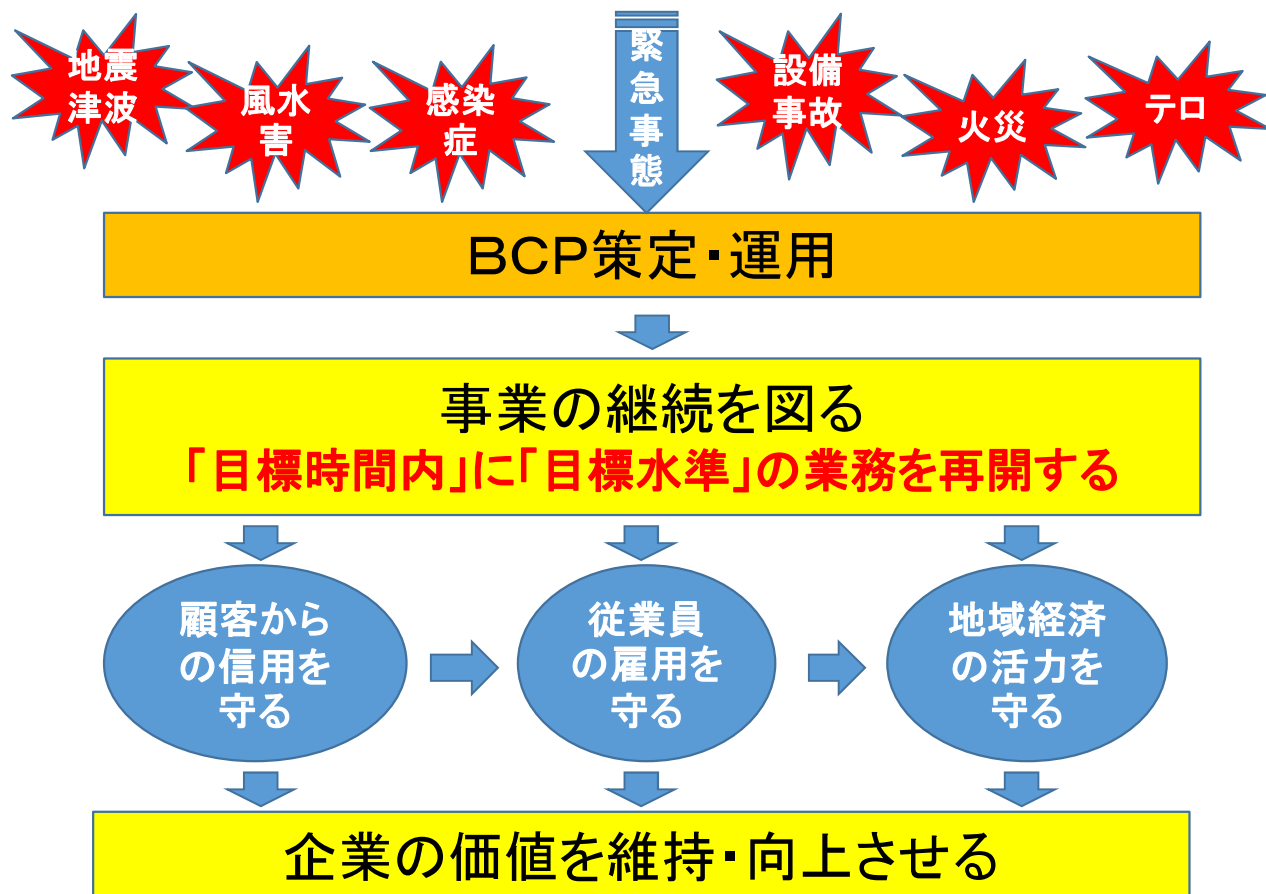
事業継続計画 (BCP)

企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの[緊急事態](#)に遭遇した場合において

- 事業資産の損害を最小限にとどめつつ
- 中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために
- 平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画。

**「生き残り」「生き延びる」ための備えを
発災以前に計画し、全員共有しておく**

事業継続計画（BCP）は・・・



21

事業継続計画＝防災計画＋事業再建計画

次の事項は、外せない!

- 経営者を含む全社員の「覚悟」表明 「基本方針」
- 万が一の時、どんな目に合うのか? 「被害想定」
- 事前に取りれる対策は何か? 「防・減災対策」
- どんな訓練が、何回できるのか? 「訓練計画」
- どの業務を、いつまでに復旧させるのか? 「重要業務と復旧目標時間」
- 対策実施と被災後復旧に使える資金は? 「資金計画」
- 被災直後のやるべきことは 「初動対応」

22

■ 先進企業は、今・・・

(順不同)

- 本社機能や本部の安全地域への移転や耐震化
- バックアップオフィスの確保
- 「事前復興」の考え方に基づくBCPの見直し
- 被災後の必要資金確保のための金融機関との話し合い
- 沿岸部や軟弱地盤に立地している場合は、現在地での復興の可能性の再検討
- 「安否確認システム」や通信手段の多重化
- 社員の家族のための減災対策
- 周辺地域の企業との減災対策の協同化や協議会づくり
- 地震保険の見直し
- 「治にいて乱を忘れず」減災対策の日常化

湯の山地域観光防災・BCPセミナー

みんなで取り組むために



地域・企業防災 相談窓口 をご活用下さい

059-231-5486
bosai@crc.mie-u.ac.jp

■ 企業防災アドバイザー

080-5104-7346
k2kawai@cty-net.ne.jp

川合 一明

■ みえ企業等防災ネットワークにご加入ください

059-231-5694
kigyo-bosai@dimio.mie-u.ac.jp

湯の山地域観光防災・BCPセミナー

大会宣言（案）

尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町における労働災害による死亡者数・休業4日以上
の死傷者数は、長期的に見て減少傾向にあり、昨年は死亡者数ゼロ、死傷者数116名であった。

本年に入ってから、死傷者数は10月末現在で77名と前年同期を20名、20.6%下回
っており、これはひとえに関係者による日々のたゆまぬ努力の成果である。

しかしながら、10月に発生した災害により、1人の尊い命が失われた。

近年発生している労働災害は、少子高齢化に端を発する人材不足により、経験豊富な安全衛生
担当者の不足、危険要因を察知できるだけの経験がない労働者の増加など、安全衛生管理体制の
弱体化や現場力の低下が原因のひとつであると懸念されるところである。

このため、熊野労働基準監督署をはじめ、労働災害防止を推進する関係団体は、安全のための
より一層の取組を促すべく、本年中の死傷災害100人未満達成を目指す「チャレンジアンダー
100くまの」推進運動を広く展開している。

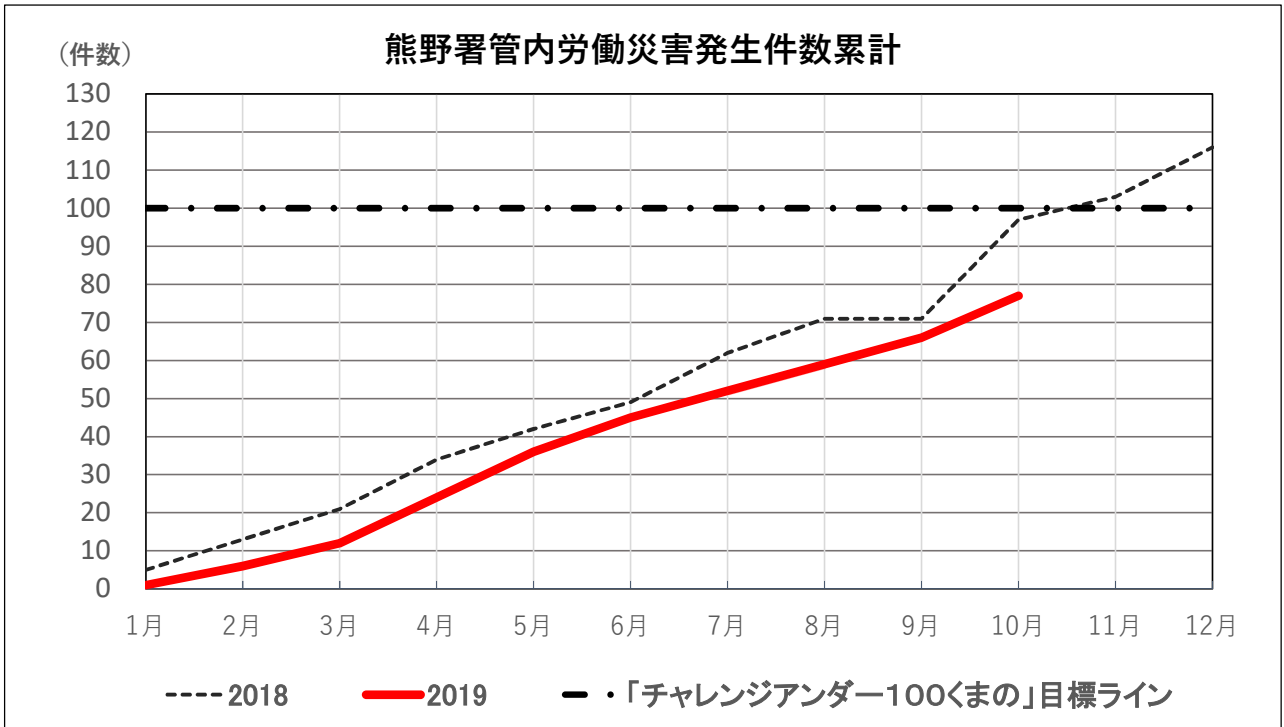
労働者が安心して仕事に打ち込むためには、経営トップの強い決意とリーダーシップの下、労
働災害防止活動を今一度総点検するほか、安全衛生管理体制の充実を図り、リスクアセスメント
の取組や安全衛生教育を実施するなど、労働災害防止に向けた意識の高揚を図ることが重要であ
る。

あわせて、過重労働の解消、メンタルヘルス対策、健康診断の結果に基づく事後措置の徹底な
どにより、労働者の心と体の健康を確保することも必要である。

本大会を契機として、私たちは、いかなる状況においても、労働者の安全と健康を最優先にし
なければならないことを再確認し、労働災害のない、誰もが安全に、安心して健康に働くことが
できる職場の実現に向け、全力を尽くすことを誓う。

令和元年11月19日

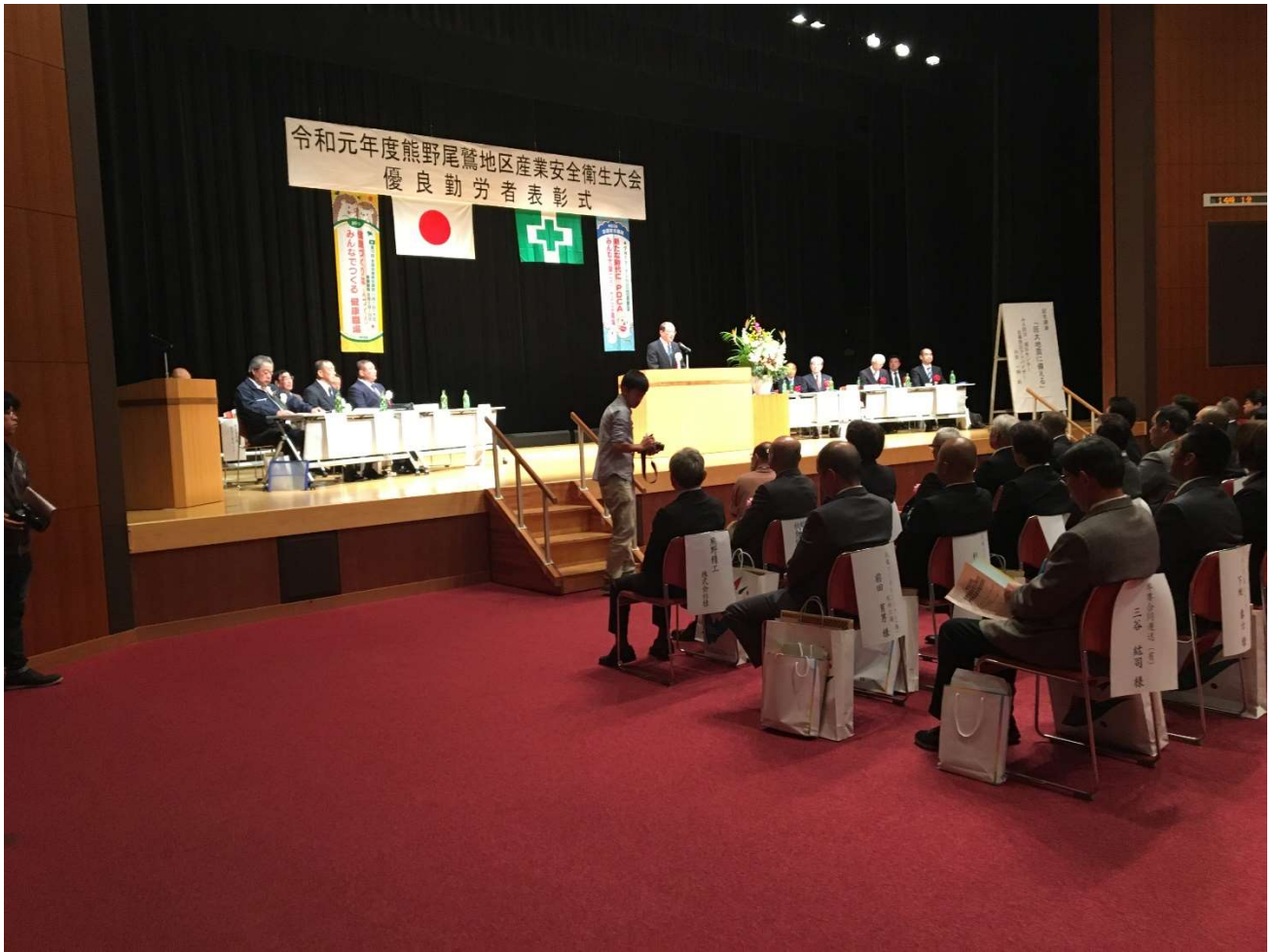
令和元年度 熊野尾鷲産業安全衛生大会



ゼロ災でいこう ヨシ!

「一人ひとりカケガエノナイひと」ヨシ!

健康安全 意識を高め
目指そう アンダー100くまの ヨシ!



令和元年度熊野尾鷲地区産業安全衛生大会
優良勤労者表彰式



